



環境衛生の振興と 美容業団体の育成

なか むら よし こ
中 村 芳 子

(82歳)

住所

秋田市

大正15年から美容業を経営する一方、美容業界の発展のためには同業者の組織づくりが必要であるとの考え方から、県美容業組合の結成に尽力し、その理事として活躍された。

さらに、全国的にも、「美容師法の単独制定化」や「環衛法の制定化」等のために強力な運動を推進された。昭和32年に「環衛法」が制定された際には、県内の同業者の組織化を図り、現在の県美容環境衛生同業組合を誕生させ、昭和35年からは理事長として今日の組合隆盛の基礎を築かれた。以来、本県美容業の指導者資格講座の開講、東北ブロックにおける東北美容協議会の適切な運営を通じて美容師の社会的地位の向上と美容技術の普及と後進の指導育成のため大きく貢献している。



農業の振興と 農業団体の育成

ど　い　だい　し　ろう
土　肥　大　四　郎

(72歳)

住所

仙北郡西仙北町

戦後農協法制定とともに、刈和野農業協同組合設立に努力し、昭和23年同組合長に

就任、昭和35年県経済農業協同組合連合会長を歴任され昭和48年県農業協同組合連合

会長、県農業協同組合中央会長等数多くの要職を務めている。

この間、農業協同組合及び連合会の強化育成に尽力し、農協の再建整備、不振組合

の育成指導、さらに、農家の副業経営として畜産を奨励するなど農家経営の基盤の確

立に努め、幅広い農政活動により農業団体の健全な育成をはかるとともに、農民の社会

的、経済的地位の向上と本県農業の発展に大きく貢献している。



体 育 の 振 興

おお の よね ぞう
大 野 米 藏

(68歳)

住所

秋田市

昭和13年から教職に就き、昭和24年から昭和47年まで県教育庁に勤務し、貫して学校体育、体育行政に携わった。

この間、昭和42年には県体育協会の組織強化を図るため財団法人秋田県体育協会を設立し、昭和43年にはスポーツ少年団育成のため各市町村にスポーツ主事の設置を全国に先駆けて行ったほか、特に昭和36年の秋田国体にあたっては、企画、運営、実施の中心として活躍し“まごころ国体”として全国の関係者から称賛された。

現在、県体育協会副会長をはじめとし、各種スポーツ団体の指導者としてスポーツの振興に大きく貢献している。



洋画の創作と 普及指導

いとうひろじ
伊藤博次

(62歳)

住所

秋田市

昭和28年に秋田美術作家協会を結成し、以来県内各地において美術展を開催するほ

か、昭和31年に一陽会展を秋田市で開催するなど、県内洋画界の発展向上に努めた。

昭和36年秋田県造形美術家協会設立に参画し、洋画部門の代表として企画運営にあ

たり後継者の指導育成に尽力されているほか創作活動においては、昭和40年に一陽会

展特賞を受賞するなど、内外の多くの賞を受賞している。

また、県立美術館の建設に際しては、本県美術界の発展のため、その必要性を説き

実現に導くなど、美術文化の向上に大きく貢献している。



樺細工の振興と 後継者の育成

こ やなぎ きん た ろう
小 柳 金 太 郎

(60歳)

住所

仙北郡角館町

昭和12年から樺細工の技能を研さんし、その優れた技術と豊富な経験を生かし、各

種の工芸展において技術を披露したほか、作品を出品して優秀な成績をおさめるなど

その独特な美しさを全国に紹介し、樺細工の振興発展に尽くしている。

また、昭和32年から角館樺工芸製作者協会及び秋田県工芸家協会理事に就任し、昭和51年角館樺工芸製作者協会長、昭和52年秋田県工芸家協会長として活躍している。

この間国の伝統的工芸品産業振興事業の後継者育成研修講師、角館中学校樺細工クラブ講師として生産技術の向上、後継者の指導育成など伝統工芸品の発展に大きく貢献している。



文学史の研究と編さん

いの うえ たか あき
井 上 隆 明

(51歳)

住所

秋田市

中央の文学界で活躍する一方、その学識を地方に対照し、本県に本格的な文化研究法を導入した。

著作の代表的なものとしては「近世書林板元総覧」「文学的図像事典」「落首文芸史」などがあり論文も「喜三二伝考異」「文人儒者論」「千賀道隆と平賀源内」など数十編に及ぶ文学研究論文を発表した。

地方文化史研究の著作として「新秋田叢書」の編集執筆の中心となり「朝四大尽晩得」「秋田古典文学史」等数多くあり、その豊富な時代考証をとおして郷土文化史の解明に尽くしている。

また、本県の児童文化史の研究も続けるなど広い分野に活躍し、本県の社会文化の発展に大きく貢献している。